

2020年度柔道整復師国家試験の出題基準の変更 —柔道整復学の必修問題対策について—

松本 揚^{1) 2)}, 野田 哲由¹⁾, 末吉 祐介^{1) 2)}, 岡村 知明¹⁾, 田辺 達磨¹⁾, 大澤 裕行¹⁾

了徳寺大学・健康科学部整復医療・トレーナー学科¹⁾

了徳寺学園医療専門学校²⁾

要旨

「背景」平成30年3月4日に柔道整復師国家試験（以下、柔整国試）が実施され、6,321名が受験した。第26回柔整国試の合格率は全体（新卒と既卒を合わせた）受験者では58.4%と過去最低の結果であった。さらに、2020年度から柔整国試の出題基準が改定され現在の出題基準からは大幅に変更となることから、柔整国試対策の実施が急務となる。

「方法」第1～第26回柔整国試を対象とした。柔整国試に出題された「柔道整復施術の基礎」についての問題を2020年度出題基準の通りに分類し、出題数を調査した。

「結果・考察」出題が最も多かったのは「肩関節烏口下脱臼の診察および整復」について39問であった。2番目は「肘関節後方脱臼の診察および整復」について31問出題されていた。それに対して出題が少なかったのは「足関節外側側副靭帯損傷の固定」、「アキレス腱断裂の固定」が0問、「肩鎖関節脱臼の固定」が1問であった。過去の必修問題では固定肢位や固定範囲などについて聞かれることは少ないことから、対策が必要な分野であることがわかった。

キーワード：柔道整復理論，国家試験，必修問題

The Transition of the National Examinations standards of 2020 for Judo Therapy Practitioners - The Tendency of Compulsory Questions in the National Examinations -

Yo Matsumoto^{1) 2)}, Tetsuyoshi Noda¹⁾, Yusuke Sueyoshi^{1) 2)}, Tomoaki Okamura¹⁾, Tatsuma Tanabe¹⁾,
Hiroyuki Ohsawa¹⁾

Department of Judo Therapy and Sports Medicine, The Faculty of Health Science, Ryotokuji University¹⁾

Ryotokuji Gakuen Medical College²⁾

Background; On March 4, 2018 the 26th National Examination for Judo Therapy (NEJT) was held.

Purpose; To improve education effect and the pass rate, we analyzed the tendency of the national examination standards of 2020. We focused on the theory of Judo Therapy in questions. The combined success rate of graduates, both new graduates and previous graduates, was 58.4%, the lowest success rate in the history of the NEJT.

26 NEJT have been administered so far. Following each NEJT, the questions from the examination are released and the information about the examination increases.

Method ; We analyzed from the 1th exam to the 26th exam.

We classified the question on 'Fundamentals of judo therapy treatment' which was entered on the Flexibility Tournament as the major item of the 2020 question criteria and the middle item class, and examined the number of questions.

Results / Discussion; I thought that by examining the examination criteria for the 2020 version of the examination criteria for the national exam, it becomes the national examination measure of the new standard. 39 questions were asked about “the consultation and reduction of anterior shoulder dislocation” which was most frequently asked. The second was 31 questions about “Medical examination and reduction of Elbow Joint Dislocation”. On the contrary, there were 0 questions on “fixation of ankle joint lateral collateral ligament injury” and “fixation of Achilles tendon rupture”. In the past compulsory problem, it is rare to be heard about the fixed limb position, the fixed range, etc. It turned out that it is a field that needs measures.

Keywords : Judo Therapist, national Judo Therapist examination, the tendency of compulsory questions

I. 背景

柔道整復師が厚生労働大臣免許となってから現在までに柔道整復師国家試験（以下柔整国試という）は26回実施されている。昨年度行われた第26回柔整国試は6,321名が受験した。第24回柔整国試から2年連続で受験者が減少しているが、1,066名の受験者数であった第1回柔整国試の時に比べると20年の間に受験者が6倍に増加しており、依然として多くの者が柔道整復師を目指し勉学に励んでいる。

その柔整国試の合格率は低下している。第26回柔整国試では全体の合格率58.4%、新卒の合格率が78.5%と共に過去最低の合格率であった。既卒者についても過去5番目に低い16.7%の合格率であった。これは多くの学校で行われている100%の合格率を目指す国家試験対策が成功していないともいえる。柔整国試は毎年実施され現在までに26回実施されていることから、養成学校で柔整国試対策の教材として使われることが多い、過去に柔整国試に出題されたいわゆる過去問は、毎年増え続け情報も増している。しかし、合格率が低下していることから柔整国試対策の難しさを示唆している。

現在の柔整国試は解剖学、生理学、運動学、病理学概論、衛生学・公衆衛生学、一般臨床医学、外科学概論、整形外科学、リハビリテーション医学、柔道整復理論、関係法規の11科目で構成され、問題数は230問あり、必修問題と一般問題に分類される。必修問題と一般問題は第14回柔整国試から明確に分類されたもので、前者は30問、後者は200問となっている。前者は全30問中の8割以上にあたる24点以上の取得、後者は全200問中6割以上の120点以上の取得で合格となる。この出題基準は2020年度から変更されることが決まった¹⁾。合否の基準に関しては現行のとおりであるが、必修問題について現在の出題基準²⁾から大幅な変更がみられる。問題数が現在の30問から20問増えて50問となる。さらに出題範囲は解剖学などの専門基礎分野からの出題がなくなり、「柔道整復施術の基礎」、「保険診療に関する知識」、「関係法規に関する知識」からの出題となる。この3つの出題範囲の中で最も出題数が多いとされる「柔道整復施術の基礎」は、28の大項目に分類されており、これを（表1）に示す。この28項目は、27つの外傷の「診察」「整復」「固定」と、「包帯法」からなっている¹⁾。また中項目は（表2 - 1～4）のように分類されている。柔道整復師の養成校にて教科書として使用されることが多い柔道整復学・理論編³⁾は大きく3つの章からなっており、概説（第I章）、総論（第II章）、各論（第III章）で構成されている。2020年度からの出題基準である27つの外傷の「診察」「整復」「固定」は柔道整復学・理論編の各論（第III章）からの出題といえる。我々が以前に行った必修問題の調査⁴⁾では、総論（第II章）から出題されることが多かったことから、現在までに必修問題に出題されてきた「柔道整復施術の基礎」についての出題の傾向が大幅に変更される可能性がある。

そこで我々は過去に「柔道整復施術の基礎」の分野から出題された柔整国試について出題数が多いものを調査し、2020年度以降の柔整国試対策に役立てることとした。

II. 目的

柔整国試2020年度版の出題基準である「柔道整復施術の基礎」について調査すること。

III. 方法

表1「柔道整復術の基礎」大項目

1	定型的鎖骨骨折の診察および整復	15	肘内障の診察および整復
2	定型的鎖骨骨折の固定	16	示指PIP関節背側脱臼の固定
3	上腕骨外科頸外転型骨折の診察および整復	17	腱板損傷の診察
4	上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折の固定	18	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察
5	コーレス(Colles)骨折の診察および整復	19	大腿部打撲・肉ばなれ、大腿四頭筋、ハムストリングスの診察
6	コーレス(Colles)骨折の固定	20	膝関節側副靭帯損傷の診察
7	第5中手骨頸部骨折の固定	21	膝関節十字靭帯損傷の診察
8	肋骨骨折の固定	22	膝関節半月板損傷の診察
9	肩鎖関節上方脱臼の診察および整復	23	下腿三頭筋肉ばなれの診察
10	肩鎖関節上方脱臼の固定	24	アキレス腱断裂の固定
11	肩関節烏口下脱臼の診察および整復	25	足関節外側側副靭帯損傷の診察
12	肩関節烏口下脱臼の固定	26	足関節外側側副靭帯損傷の固定
13	肘関節後方脱臼の診察および整復	27	下腿骨骨幹部骨折の固定
14	肘関節後方脱臼の固定	28	包帯法

第1～第26回柔整国試に出題された柔道整復学の問題1,424問を対象とした。2020年度出題基準の「柔道整復施術の基礎」の大項目及び中項目に分類し、出題数を調査した。

IV. 結果

大項目に分類されたもので最も多く出題されていたのは「肩関節烏口下脱臼の診察および整復」の39問であった。次に31問出題されていた「肘関節後方脱臼および整復」、その次は30問出題されていた「コーレス(Colles)骨折の診察および整復」であった(表3)。

大項目で出題数が少なかったのは「足関節外側側副靭帯損傷の固定」で、過去に出題されたことは1度もなく、「肩鎖関節上方脱臼の固定」と「第5中手骨頸部骨折の固定」は1問ずつ、「コーレス(Colles)骨折の固定」と「肩関節烏口下脱臼の固定」と「示指MP関節背側脱臼の固定」が2問出題されていた(表3)。

中項目では「診察」が190問、「検査・手技動作」が40問、「神経・血管損傷、その他の合併症の有無」が37問の順に出題が多かった。出題が少なかったのは(表4)の通りである。

表2-1 大項目が「～の診察および整復」の中項目

大項目	中項目
定型的鎖骨骨折の診察および整復	A 診察 B 神経・血管損傷、その他の合併症の有無 C 患者の介助 D 助手への指示 E 整復操作
上腕骨外科頸外転型骨折の診察および整復	
コーレス(Colles)骨折の診察および整復	
肩鎖関節上方脱臼の診察および整復	
肩関節烏口下脱臼の診察および整復	
肘関節後方脱臼の診察および整復	
肘内障の診察および整復	

表2-2 大項目が「～の固定」の中項目

大項目	中項目
定型的鎖骨骨折の固定	A 固定材料 B 固定肢位 C 患者への説明 D 助手への指示 E 固定の手順 F 固定後の確認
上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折の固定	
コーレス(Colles)骨折の固定	
第5中手骨頸部骨折の固定	
肋骨骨折の固定	
肩鎖関節上方脱臼の固定	
肩関節烏口下脱臼の固定	
肘関節後方脱臼の固定	
示指PIP関節背側脱臼の固定	
アキレス腱断裂の固定	
足関節外側側副靭帯損傷の固定	
下腿骨骨幹部骨折の固定	

表2-3 大項目が「～の診察」の中項目

大項目	中項目
腱板損傷の診察	A 診察 B 神経・血管損傷、その他の合併症の有無 C 患者の介助 D 検査手技・動作
上腕二頭筋長頭腱損傷の診察	
大腿部打撲・肉ばなれ、大腿四頭筋、ハムストリングスの診察	
膝関節側副靭帯損傷の診察	
膝関節十字靭帯損傷の診察	
膝関節半月板損傷の診察	
下腿三頭筋肉ばなれの診察	
足関節外側側副靭帯損傷の診察	

表2-4 「包帯法」の中項目

大項目	中項目
包帯法	A 包帯各部の名称
	B 包帯の種類
	C 包帯の巻き方
	D 基本包帯法の種類と適応
	E 冠名包帯法の種類と適応
	F 基本包帯法および冠名包帯法の実施法

表3 大項目の出題順位

順位	大項目	問題数
1	肩関節烏口下脱臼の診察および整復	39
2	肘関節後方脱臼の診察および整復	31
3	コーレス(Colles)骨折の診察および整復	30
4	定型的鎖骨骨折の診察および整復	26
5	肩鎖関節上方脱臼の診察および整復	22
5	腱板損傷の診察	22
7	足関節外側側副靭帯損傷の診察	21
8	上腕骨外科頸外転型骨折の診察および整復	19
9	膝関節十字靭帯損傷の診察	18
9	肘内障の診察および整復	14
11	膝関節側副靭帯損傷の診察	11
12	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察	10
12	膝関節半月板損傷の診察	10
14	大腿部打撲・肉ばなれ、大腿四頭筋、ハムストリングスの診察	7
15	定型的鎖骨骨折の固定	6
15	下腿三頭筋肉ばなれの診察	6
17	上腕骨骨幹部三角筋附着部より遠位骨折の固定	4
17	肋骨骨折の固定	4
17	肘関節後方脱臼の固定	4
17	包帯法	4
21	アキレス腱断裂の固定	3
21	下腿骨骨幹部骨折の固定	3
23	コーレス(Colles)骨折の固定	2
23	肩関節烏口下脱臼の固定	2
23	示指PIP関節背側脱臼の固定	2
26	第5中手骨頸部骨折の固定	1
26	肩鎖関節上方脱臼の固定	1
28	足関節外側側副靭帯損傷の固定	0

表4 中項目の出題順位

順位	中項目	問題数
1	診察	190
2	検査手技・動作	40
3	神経・血管損傷、その他の合併症の有無	37
4	固定肢位	20
5	整復操作	16
6	固定の手順	4
7	患者への説明	4
8	固定材料	3
9	基本包帯法の種類と適応	3
10	患者の介助	2
11	助手への指示	1
12	固定後の確認	1
13	冠名包帯法の種類と適応	1
14	包帯の巻き方	0
15	包帯の種類	0
16	包帯各部の名称	0
17	基本包帯法および冠名包帯法の実施法	0

今回の結果から、柔整国試の必修問題の出題傾向に大幅な変更があることが予想される。

我々が報告⁴⁾した第14回から第25回柔整国試までの必修問題の出題傾向の調査では、最も出題されていたのが「小児骨折・高齢者骨折の特徴」、その次に出題されていたのが「骨折の整復法」であった。この2つは2020年度の出題基準に含まれていないため、第27回柔整国試からは現在までに多く出題されてきた「小児骨折・高齢者骨折の特徴」と「骨折の整復法」について総論的な問題としては出題されない可能性がある。

また、中項目の調査から、「診察」に比べて「整復」や「固定」に関する問題が過去26回の柔整国試では出題が少ないことが分かった（表4）。これは外傷の症状などについては出題されているが整復法や固定法など治療に関する問題の出題が少ないことを示している。今後の必修問題には、過去に出題されている問題とは全く異なる問題が出題される可能性がある。

これらの結果から、柔整国試の勉強方法の王道でもある、いわゆる過去問の勉強だけでは必修問題を及

第点に届かせるのは難しいと考えられる。今後の柔整国試必修問題の対策では、過去問に頼らない学習を行わなければならない。

その勉強方法についてだが、柔道整復学に関しては柔道整復学・理論編³⁾の1冊を熟読すれば柔整国試の必修対策としては問題が生じることはなかった。しかし、2018年度に改訂された柔道整復学・理論編³⁾改訂6版からは、2020年度の出題基準となっている外傷の「診察」「整復」「固定」について記載がなくなり、柔道整復学・実技編⁵⁾を参照となっている。また、2020年度の出題基準である「包帯法」もまた柔道整復学・理論編⁴⁾には記載がないため包帯固定学⁶⁾を詳しく学ぶ必要がある。

調査の結果、今回の出題基準の変更で柔道整復師の養成機関に求められていることは、理論だけを教えるのではなく、臨床の現場で実践できる能力を身につけさせることを促しているのだと考えられる。今後は理論だけでなく、実践力が必要となってくるであろう。そのためにも臨床実習などの臨床研修や、実技教育に力を入れる必要がある。

参考文献

- 1) 公益財団法人柔道整復研修試験財団 (2018) 柔道整復師国家試験出題基準2020年版. 医歯薬出版. 3-27.
- 2) 公益財団法人柔道整復研修試験財団 (2015) 柔道整復師国家試験出題基準平成22年版. 医歯薬出版. 3-12.
- 3) 公益社団法人柔道整復学校協会監修 (2018) 柔道整復学・理論編改訂第6版, 南江堂, 東京.
- 4) 松本揚, 野田哲由, 末吉祐介, 田辺達磨, 岡村知明, 橋本俊彦, 大澤裕行 (2018) 柔道整復師国家試験の必修問題の出題傾向について. 了徳寺大学研究紀要. 12. 69-74.
- 5) 公益社団法人柔道整復学校協会監修 (2017) 柔道整復学・実技編改訂第2版, 南江堂, 東京.
- 6) 公益社団法人柔道整復学校協会監修 (2014) 包帯固定学改訂第2版, 南江堂, 東京.

